

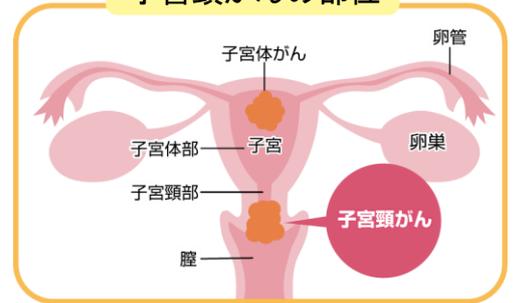
ヒトパピローマウイルス (HPV) 感染症ワクチン

ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンとは

HPV ワクチンは、子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス (HPV) の感染を防ぐワクチンです。

HPV は、女性の多くが一生涯に一度は感染するといわれるウイルスです。感染してもほとんどの人はウイルスが自然に消えますが、一部の人で子宮頸がんを発症することがあります。子宮頸がんは、子宮頸部(子宮の入り口)にできるがんで20代から30代で急増し、日本では年間約11,000人の女性が発症していると報告されています。

子宮頸がんの部位



接種方法

十分な免疫を作るためには、6 か月間で3回接種(※9価ワクチンの1回目を15歳未満で接種した場合は、合計2回)が必要です。

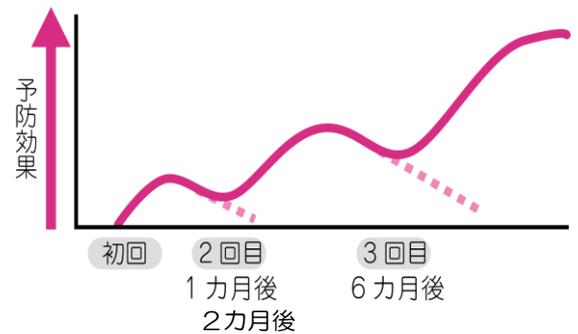
ただし、次の方は接種できません。

- ① 明らかな発熱がある
- ② 重篤な急性疾患にかかっている
- ③ ワクチンの成分に対して過敏症を示したことがある
- ④ 接種医が接種すべきでないと判断した場合

このワクチン接種により、HPV16型と18型の感染を防ぐことができますが、すべての発がん性 HPV の感染が予防できるわけではありません。また、すでに感染した HPV を排除することもできません。

子宮頸がんを苦しまないためには、ワクチン接種だけでなく、定期的に子宮頸がん検診を受け、早いうちに異常を見つけることが大切です。

接種スケジュール



<接種できる HPV ワクチン>

- * 2価 HPV ワクチン(3回)
 - * 4価 HPV ワクチン(3回)
 - * 9価 HPV ワクチン
- 15歳未満で1回目を接種する場合(計2回)
15歳以降に1回目を接種する場合(計3回)

接種するワクチンの種類により、接種間隔が異なりますので、接種医とご相談ください。

《持ち物》

- 接種券
 - 母子健康手帳
 - 健康保険証
 - こども医療費受給者証
- (接種料金は無料ですが、予診の結果、身体の具合が悪くて接種できなかったときの診療は保険診療となります。)

副反応について

主な副反応として、かゆみ、注射部位の痛み・赤み・はれ、胃腸症状(吐き気、嘔吐、下痢、腹痛など)筋肉の痛み、関節の痛み、頭痛、疲労などがあります。重い副反応として、まれに、アナフィラキシー症状(血管浮腫、じんましん、呼吸困難等)があらわれることがあります。

健康被害救済について

予防接種法に基づく定期の予防接種による健康被害の救済制度です。健康被害が予防接種と因果関係があると厚生労働大臣が認めた場合、医療費などの救済制度が受けられます。

* 接種可能な医療機関については、裏面をご覧ください。

お問合せ 清水町図書館・保健センター複合施設(まほろば館)
保健センター TEL055-971-5151